

算数・数学科 小学校第1学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
4	ななまづくりとかず (1) 10までのかず (2) おおいすくない (3) かずならば (4) 0というかず	A (1) アイ	13			○ものともとの対応させること によって、ものの個数を比べるなどの活動から始まり、やがて、その個数を正しく数えたり、数えたものの個数を数字で表したりすることができるように進める。また、こうした活動を通して、数の大小や順序を知り、次第に数の意味、100までの数の構成をおさえる。		
	なんばんめ (1) なんばんめ	A (1) イ C (1) イ	2					
5	いくつといくつ (1) いくつといくつ	A (1) エ	8+1	加法の導入として、合併と増加という加法の概念を明確にし式に表すことは、今後の加法計算の基礎となるので日常の事象から加法の適用できる場面を十分に扱うことが必要である。		○1～10の数を抽象するために、おはじきやアレイ図などのイメージでとらえられるように進める。特に5までの数のイメージがしっかりともてるようにする。6～10は、5をもとにイメージできるように進める。 ○10の構成で、補数を求める場合は、順序よく考え規則性に気付かせるなど、関数的な考えの基礎的経験ができるように進める。また、10に対するaの補数bが即座に思い浮かぶように繰り返し指導する。	第2学年 ・1つの数を他の数の積としてみること ・加法、減法の筆算形式 ・2位数±2,1位数=2位数 ・()を用いた3口の加法 ・2位数+2,1位数=3位数の加法とその逆の減法 ・簡単な3位数の加法、減法	■10の数合わせをしよう ・じゃんけんで勝った人が1から9の数を言う。相手はその10に対する補数を答える。 ・体育館でゼッケンを付けて、先生が言った数になるように相手を見付けるなど、ゲーム的に行う。
6	あわせていくつふえるといくつ (1) あわせていくつ (2) ふえるといくつ (3) たすといくつ (4) 0のたしざん	A (2) ア イ D (1) (2)	7+1	加法の導入として、合併と増加という加法の概念を明確にし式に表すことは、今後の加法計算の基礎となるので日常の事象から加法の適用できる場面を十分に扱うことが必要である。		○加法の意味を明確にするため、加法が使えない場もおさえる。 ○加法の意味を一般化するため、場面をおはじきなどに表し、これを手で「あわせる」操作をするときはたし算を用いることをおさえる。操作を根拠に立式することで、次学年以降学習する「逆思考」の問題にも対応できるように進める。	第2学年 「何十の計算」 「たし算の筆算・ひき算の筆算」 「たし算とひき算」 ・逆思考の加法 第3学年 「たし算とひき算の筆算」 ・3位数+2,3位数 =3,4位数	■答えが同じになるたし算カードをあつめよう。 ・答えが6になるたし算カードをあつめよう。 ・それで全部かはっきりさせよう。 (順番に並べさせる) ・ほかの、答えが同じになるカードをあつめよう。 ■絵を見てお話問題を作りましょう。

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
6 7	のこりはいくつちがいはいくつ (1) のこりはいくつ (2) ひくといくつ (3) 0のひきざん (4) ちがいはいくつ	A (2) アイ D (1) (2)	7+1	減法の導入として、減法の意味理解を深めるとともに、演算決定の力を確実に身につけることは今後の四則計算につながっていくので、加法両方の場面を同時に扱っていく必要がある。		○減法の意味を明確にするため、加法と比較しながら指導を進める。 ○減法の意味を一般化するため、場面をおはじきなどに表し、これを手で「離す」操作をするときはひき算を用いることをおさえる。その際は、加法の説明から類推させるようにし、「習ったことをもとに考える」態度を育てていくように進める。操作を根拠に立式できるようにすることで、次学年以降に学習する「逆思考」の問題にも対応できるように進める。	第2学年 「何十の計算」 「たし算の筆算・ひき算の筆算」 「たし算とひき算」 ・逆思考の減法 第3学年 「たし算とひき算の筆算」 ・3位数-1,2,3位数 =1,2,3位数	■答えが同じになるひき算カードをあつめよう（たし算と同様に行う。） ■計算カードで神経衰弱をしよう。 ■絵を見てお話もんだいを作りました。
8	10よりおおきいかず (1) 10よりおおきいかず	A (1) オキ A (2) ウ	8			○十進位取り記数法の理解の基礎となるため、具体物を用いて、10のまとまりと端数という考え方をもとに構成されていることをおさえる。	第2学年 「3けたの数」 「4けたの数」 第3学年 「大きい数のしくみ」	
9	なんじ なんじはん ・何時、何時半	B (2)	1			○日常生活の中で、時刻に関心を持てるように進める。	第2学年 「時間の単位（日、時、分）」 第3学年 「時間の単位（秒）」 「時刻や時間の計算」	
	はなはなんこさいたかな ・ものの個数を絵や図などを用いて表したり、読み取ったりすること		1					
	どちらがながい (1) どちらがながい	B (1) アイ	5			○長さという量を抽象するために、形、材質、色、向きなどに依存しないことをおさえる。 ○片方の端を手で隠して比較できるか考えさせるなど、比較できる場合とできない場合をおさえる。測定の基礎となる「そろえる」という考えを意識できるように進める。直接比較できないものは、長さを写し取って比較する（間接比較）長さは、移しても変わらないことをおさえる。	第2学年 「長さの単位」 ・任意単位での長さの測定 ・cm、mm、m、 第3学年 「長さや重さの単位」 ・km、g、kg、t	

	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
9	3つのかずのけいさん	A (2) アイ D (1) (2)	4+1	既習の加法, 減法を明確にし式に表すことは、今後の計算の基礎となるので、日常に事象から加法、減法の適用できる場面を十分に扱う必要がある。		○具体的な場面を式に表すこと、式を具体的な場面に即して読みとること、図や具体物を用いて表すことを丁寧に進める。	第2学年 「計算のくふう」 ・3つの数の計算 ・たし算とひき算 ・3つの数の筆算	■6-4+2 の式になるように動いてみましょう。 ・実際に動きながら場面をつくったり算数ブロックで表したり、式で表したりしながら答えを求める。
10	どちらがおおい	B (1) アイ	4			○具体的にかさを比較したり、コップに入る量を単位として測定したりする活動から、かさの概念を明らかにするよう進める。 ○決定した単位によって、はかりうとするかさが、そのいくつ分であるかを捉え、測定値としてとらえるように進める。	第2学年 「体積の単位」 ・ml、dl、l 第5学年 「体積の単位」	
	たしざん (1) 9+4のけいさん (2) 3+9のけいさん (3) かあどれんしゅう	A (2) アイ D (1) (2)	12+1	1位数+1位数=2位数の計算は今後の学習の基礎となる重要な内容であるので、しっかりと計算の仕方を理解、習熟させることが大切である。数構成、数感覚、計算力を関連付けながら問題の解決に取り組み、習熟を図ることが必要である。		○立式の根拠をはっきりさせるよう進める。 ○答えが10をこえるか、こえないか予想する習慣をつけるよう進める。 ○10といくつ、と考えれば習った形に直せることから、10を作ればよいことに気付かせるよう進める。 ○10の作りかたには、主に加数分解、被加数分解の両方があるので、場合によって使い分けることができることをおさえる。 ○1~9同士の繰り上がりのあるたし算全ての答えは、即座に言えるように繰り返し練習するよう進める。時間がかかる子へは10のプレートを用意するなどして数を視覚的にとらえられるよう進める。	第2学年 「何十の計算」 「たし算とひき算の筆算」 ・2位数+1, 2位数=2位数 「たし算とひき算」 ・逆思考の加法	■答えが同じになるたし算カードを集めようII ・答えが13になるたし算カードをあつめよう。 ・それで全部かはっきりさせよう(順番に並べさせる) ・ほかの、答えが同じになるカードをあつめよう。
11	かたちあそび (1) かたちをつくろう (2) かたちのとくちょうをまとめよう (3) かたちをうつしてえをかこう	C (1) アイ	5			○身の回りのものの形の観察や形の構成などの操作を通して、立体図形に親しみ、それらの理解の基礎となる経験を豊かにするよう進める。	第2学年 「箱の形」 第4学年 「直方体と立方体」 第5学年 「角柱と円柱」	

	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
11	ひきざん (1) 13-9のけいさん (2) 12-3のけいさん (3) かあどれんしゅう	A (2) アイ D (1) (2)	12+1	繰り下がりのある2位数-1位数=1位数の減法は今後の学習の基礎となる重要な内容であるので、しっかりと計算の仕方を理解、習熟させることが必要である。		○立式の根拠をはっきりさせるように進める。 ○10に対する補数や、10-7-4といった既習事項を活用して、10から引けばよいことに気付かせるように進める。 ○繰り下がりのあるひき算の仕方には主に減加法と減減法の両方があるので、場合によって使い分けることができるように進める。 ○繰り下がりのあるひき算全ての答えは、即座に言えるように計算カードを活用するなどして繰り返し練習する。時間がかかる子へは10のプレートを用意するなどして、数を視覚的にとらえるように進める。	第2学年 「何十の計算」 「たし算とひき算の筆算」 ・3位数-1,2位数=2位数「たし算とひき算」 ・逆思考の減法 第3学年 「たし算とひき算の筆算」 ・3位数-1,2,3位数 =1,2,3位数	■答えが同じになるひき算カードを集めようⅡ (たし算と同様に行う。) ■計算カードで神経衰弱をしようⅡ ■式を見てお話もんだいを作りましょう。 ■25マス計算に挑戦しよう。
12	どんなけいさんになるのかな	A (2) アイ D (1) (2)	2+1	既習事項を活用して立式し、その根拠を説明することは、今後の学習の多くにつながってくるので、式を図などで表現したり、図や操作を式にしたりして、説明する活動を多く取り入れることが必要である。		○立式の根拠を明らかにするために、絵や図を使って説明できるように進める。 ○絵に表されたものを読み取って式を考えられるように進める。		■絵を見て、たし算やひき算の問題を作りましょう。
	どちらがひろい	B (1) アイ	1			○具体的に広さを比較したり、身の周りにあるものを単位として測定したりする活動から、広さの概念を明らかにするよう進める。 ○決定した単位によって、はかろうとする広さが、そのいくつ分であるかをおさえる。	第4学年 「面積の単位」 ・c㎡、㎡、k㎡ ヘクタール アール	

	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
1	<p>20よりおおきいかず</p> <p>(1) 20よりおおきいかずをかぞえよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な2位数の加減計算 <p>(2) 100までのかずのならばかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かんたんな3位数 	<p>A (1) イウオカ</p> <p>A (2) ウ</p>	15+1	2位数については、具体物を数えたり、具体物を用いて数を表したりするなどの活動を通して指導することが大切なので、何十何という数が、10のまとまりの個数と端数という考え方を基にして構成されていることを理解させ、数の構成についての感覚を豊かにさせることが必要である。		<p>○数は、10集まったら1まとまりにして別の単位として数えていく。このことは十進位取り記数法の本質であり、次学年以降の学習の基礎である。100までの数をすらすら唱えられるようにするなど、全ての児童に完全に身につけるように進める。</p> <p>○100の導入については1が10こ集まって新しい単位10を用いたことから類推させて、10も10こ集まったら、新しい単位が必要なことを意識させるようにする。その意識を千、万…の学習につなげていくように進める。</p>	<p>第2学年</p> <p>「3桁の数」</p> <p>「4桁の数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3,4位数の命数法、記数法 ・3,4位数の位取りの原理 <p>第3学年</p> <p>「おおきい数の仕組み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千万までの数の命数法、記数法、位取りの原理 	<p>■100までの数を唱えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100までの数を唱える。 ・逆から唱える。 ・2とび、5とびなどで唱える。 <p>■ひゃくよりおおいかずをかぞえてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・112匹のおたまじゃくしを数える。 <p>(100をこえても10の塊を作って数えることに気づかせる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・123匹のおたまじゃくしを数える。 <p>(100をこえても10の塊を作ることを繰り返せばよいことに気づかせる。)</p> <p>■すごろくゲームをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2個のさいころを使って、出た目の和だけ進む。200をゴールとする。
2	<p>なんじなんぶん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時計の見方 ・何時、何時半、何時何分 	B (2)	2				<p>第2学年</p> <p>「時間の単位(日、時、分)」</p> <p>第3学年</p> <p>「時間の単位(秒)」</p> <p>「時刻や時間の計算」</p>	
	<p>ビルをつくらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗法、除法の素地 	A (1) ア	1				<p>第2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗法の意味と記号 ・倍概念の基礎 ・1～9の段のかけ算 ・簡単な2位数×1位数 	
	<p>かずをつかかってかんがえよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な順序数の加減 ・異種量の加減 ・求大、求小の加減 ・数量の関係を加法、減法の記号を用いた式に表したり、それを読んだりすること 	<p>A (2) アイ</p> <p>D (1) (2)</p>	6+1	既習の加法、減法についての意味理解を深め、さまざまな場面で加法や減法を活用する力を身につけさせることが大切なので、問題作りや様々な問題に挑戦する活動を多く取り入れることが必要である。		<p>○加法や減法が用いられる場合(増加、合併、求差、求残、求大、求小など)の問題作りを通して、実際の生活場面での加法や減法の必要性を感じさせるように進める。</p>	<p>第2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加法、減法の適用 ・減少、増加の逆の加減 ・数量の関係を表すのに式を用いること 	

	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
3	「ばしょをあらわそう」 ・ものの位置や方向の表し方の素地		1				第5学年 ・平面上にあるものの位置 ・空間にあるものの位置	
	「けいさんピラミッド」 ・1～2位数の加減法の習熟		2					
	「1年のふくしゅう」		2					
	合計		136					